

# Rikkyo Club of Executives & Professionals 立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：和田成史 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

## 2016経済人交流ゴルフコンペ



対外交流委員会主催の「2016経済人交流ゴルフコンペ」が2016年9月10日(土)に茨城県稲敷市の「アスレチックガーデンゴルフ倶楽部」にて盛大に行われました。当日は日本列島を縦断した大きな2つの台風により天候が心配されましたが、例年同様、晴天に恵まれ昨年を上回る26名のご参加を頂きました。

対外交流委員会は立教経済人クラブ内に拘らず、他大学や他団体の方々との交流事業を通じ相互の親睦の場の創出を目的に活動をしており、年間では例年秋に開催しています今回の「経済人交流コンペ」をメイン行事として位置付けて活動しております。

本年も内外での案内を通じ、他大学等のOB・OGが12名、立教のOB・OGが14名にご参加を頂きました。立教経済人クラブからは、会長の和田成史氏(S50(営)(株)オービックビジネスコンサルタント社長)、副会長の上原洋一氏(S46(院経)上原ネームプレート工業(株)社長)、伊藤守氏(S49(観)(株)毎日コムネット社長)をはじめ、我こそはという腕自慢(?)の立教健児の方々にご参加を頂きました。

他大学や他団体の方々も、年を追うごとにリピーターの方々も増え、東京大学・一橋大学・慶應義塾大学・明治大学・中央大学・中央学院大学等をご卒業し、各方面において現役でご活躍をなされている社長・役員様など、華やかな顔ぶれが一堂に集まることとなりました。

特に本年は、立教経済人クラブと同様に、学内での活動が盛んな「青山学院大学オーナー会」から幹事の関口武己氏((株)プロモーション

ビジネスソリューション本部ビジネスディレクター)にご吹聴頂き、オーナー会から計3名のメンバーが初参加。また、新たに女性経済人の方々も3名にご参加頂けるなど、一段と会に華を添えて頂くこととなりました。

開催場所となった「アスレチックガーデンゴルフ倶楽部」は、懇親会でご挨拶を頂きました当倶楽部の理事長、横田誠氏のお話のとおり、ガーデンを意識した美しさと巧みに配されたバンカー、8つの池により戦略性を求められるその名称どおりのコース内容でした。立教関係2名と他団体2名の組み合わせによる7組は、時にはコースの左右へ散らばりながらも、笑いとお声の連続で満喫した18ホールを過ぎて参りました。

優勝はグロス40・43=83ネット72.2 江口夏郎氏(東京、(株)ライトワークス社長)、準優勝はグロス44・49=93ネット72.6 和田成史氏(立教、(株)オービックビジネスコンサルタント社長)、第3位はグロス43・41=84ネット73.2 桑原忠雄氏(東海、(株)ワコーエンジニアリング社長)、第4位はグロス47・43=90ネット73.2 松田浩太郎氏(明治、共和物産(株)執行役員)、第5位はグロス44・45=89ネット73.4 長倉一裕氏(立教、(株)こだま社長)という結果になりました。

終了後の懇親会では、和田会長の挨拶で始まり、時間が経つにつれて自由に席を移動するなど交流が活発に行われ、終盤の順位発表時には感想なども添えて頂きながらお互いに

健闘を称えるシーンも続出し、時間を忘れるほどに大いに盛り上がりました。最後は伊藤副会長による中締めのご挨拶をもって、会の発展と参加者各位の健勝を願いながら閉会いたしました。

最後に、今回の運営にあたりましては、参加者の方々ならびに当日ご参加出来なかった方々からも多数の素晴らしい賞品のご協賛を頂き、参加者全員に「対外交流ゴルフ」の思い出としてお渡しする事ができました。この場をお借り致しまして、商品をご提供いただきましたスポンサーの皆様方に深く感謝申し上げます。

※商品のご賞賛を頂いた法人様、スポンサー様(順不同、敬称略)

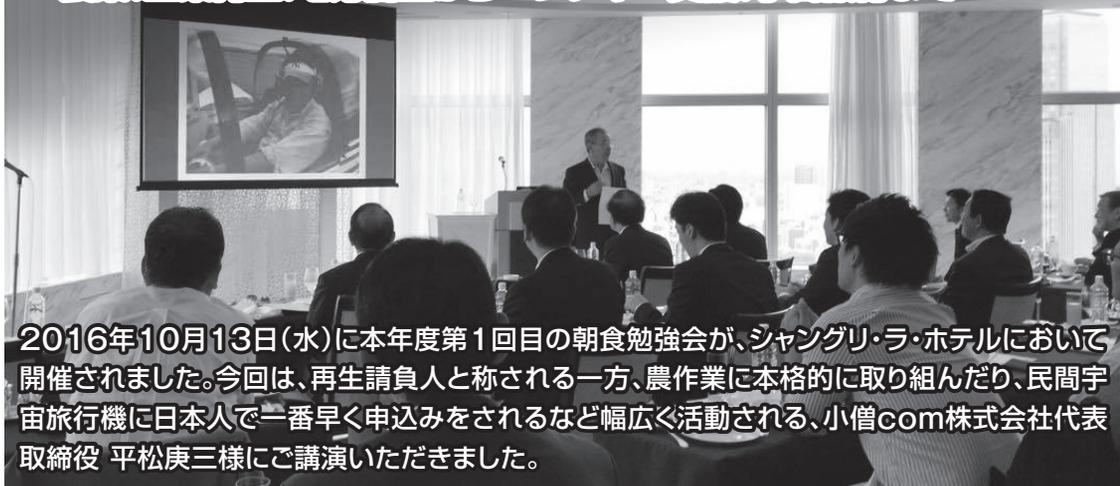
法人 (株)オービックビジネスコンサルタント(株)とんでん  
共和物産(株)  
RIA JAPAN おカネ学(株)  
(株)三越伊勢丹

個人 荻原紀男 関口武己 伊藤功一  
桑原忠雄 伊藤守 上原洋一  
戸井田和彦 井口一世 昆凡子  
小澤陽子 森和夫 梅村吉 加藤英樹

## 朝食勉強会

# 現役小僧のハイブリッドワーク・ライフスタイル

～農業、企業再生、地方創生からベンチャー支援、宇宙旅行まで～



2016年10月13日(水)に本年度第1回目の朝食勉強会が、ジャングリ・ラ・ホテルにおいて開催されました。今回は、再生請負人と称される一方、農作業に本格的に取り組んだり、民間宇宙旅行機に日本人で一番早く申込みをされるなど幅広く活動される、小僧com株式会社代表取締役 平松庚三様にご講演いただきました。

### ◆ 企業を再生するポイント

私は、過去ヘッドハントにより外資系日本企業の再生を4社引き受けてきました。

通常、社員をヘッドハントしても社長をヘッドハントする会社はあまりなく、このように社長をヘッドハントする会社は断末魔の状態です。このような断末魔の会社を立て直すための最も重要なポイントは「人」です。経営は人が全てなのです。

そこで、経営者になってまず行うことは人材の発掘と調達です。経営者は人・金・時間といった色々なリソースを使わなければなりません。それは必ずしも社内のリソースだけでなく、社外のリソースも積極的にしっかり使うことが大切です。必要な人が社内にいなければ外から連れてくるということはいくつもあることです。

### ◆ 人材採用のポイント

人を連れてくる時のポイントは「不公平」です。

日本は公平というものに捉われ過ぎています。本来、優れているものはどんどん進ませるべきです。なぜなら、経営者(会社)は人を雇うのではなく、「才能」を雇うからです。

多くの会社で、何年入社、何大学出身、ということで仲良くやっていますが、ビジネスをする上では全く意味

のないことだと思います。会社の人事も、働く社員ももっと自分の能力にスポットを当てなければなりません。

その結果、才能のある社員を優遇し年齢や入社年度は無視する。若くて社歴が短くても仕事に見合った給与を支給する。すなわち公平に扱わないことが結果を出すためには必要なのです。

### ◆ 働くということは一所懸命とは違う

これまでの日本の会社は、郊外に住んで50～60分満員電車で揺られて通勤し、夜遅くまで残業をする、ということが当たり前でしたが、本来はこういうことが働くということではありません。働くということは、「アウトプットは何かを考えること」なのです。

つまり、会社に忠誠を誓うのではなく自分のジョブに忠誠を誓うことが真に働くということであり、ただ一所懸命にやればよいというものではないのです。

そして、経営者は必要なジョブやファンクションに合う才能を採用するのです。企業を再生するために、ジョブやファンクションに合わなかったので人を変えたということも何度もありました。

### ◆ 育てるということ

人を見極めるのは難しいものです。ましてや、再建に

当たってはじっくりと見極めている時間がありません。5年10年かけて人を育てることはできないのです。

ですから私はいつも、採用したその日からスタメンに起用します。

もちろんいきなり打てるわけではありません。しかし、空振りでもいい、その空振りの仕方を見るのが大切なのです。そうしてスタメンで使用しているうちに人は育っていくものです。

しかし、人を育てるということでもさらに大切なことがあります。それは、社長は人を育てる前に自分で自分を育てなければならないということです。

そのためには、自分はプロダクトであると考えることが必要です。プロダクトであるということは自分の価値を創ること、すなわち自分のプロダクトバリューをあげることが自分を育てることになるのです。

### ◆ 人生の価値観について

これまでの日本人の価値観として、良い大学に入り、良い会社に就職し、結婚する。これが良い人生だ、というものがありました。そして、これは今でも同じようにあります。

しかし、みんなが同じ考え方、同じ価値観ということは国として大問題なのです。なぜなら、そこには多様性というものが無いからです。

その原因は、小学生の時から独創性より協調性を重要視する教育にあります。どんなに才能があっても飛び級もなく、周りと同じ授業を受ける。これでは才能があっても伸びることができません。

これからの社会では、才能ある人を伸ばすことが必要です。そのためには、成功体験をさせ思いっきり差をつけていくこと、そしてこれが人生である、という価値観を持つことが大切になっていくのではないのでしょうか。

### ◆ 起業のきっかけ

孫さん、三木谷さんとの出会いがあり、自分は雇われ社長でいいのか?という自問自答が始まりました。

「これが自分の人生か?」という思いです。

世の中には、大きい会社=良い会社、という考え方が今でもあり、私にもありました。孫さんや三木谷さんとの出会いがあり、自分で会社を起こすこともいいことなのではないか、と考え始めたのは50歳になってからです。

## 2016年度第2回理事会

さる11月9日、本年度立教経済人クラブ第二回理事会が新橋の新橋亭(取締役会長:呉 東富様 昭41・営)にて開催されました。18:30定刻より理事会を開始。昨年度実施された各委員会企画事項の進捗状況並びに中間会計をご報告させていただきました。和田会長をはじめ、各理事の皆様からご意見並びにご助言を賜り、会員の拡大と、会員相互で会の活動が活性化できるように企画を作っていくとの旨で報告を終了いたしました。

その後懇親会へと移り、和田会長(昭50・営)よりイギリスEU離脱、イスラム国、トランプ新政権発足など日々大きく変化していく社会情勢の中で、メンバー各位が様々な変化への対応をしていくことが大事であるとのお話と、運営委員各位への激励のお言葉をいただいたのち、谷田権様(昭35・経)による高らかな乾杯のご発声により開宴。今回も新橋亭 呉先輩のお計らいによりおいしい中華のメにはちょうど時期となった上海ガニの身と味噌がとろりと餡かけになったチャーハン(絶品!)をご提供いただき、参加しているメンバーはめったに味わうことのない機会とばかりおいしい料理に舌鼓をうちました。

諸先輩方の近況などを詳しく伺うことができ、定刻21時に散会となりました。引き続き各委員会の活動にご支援とご指導をお願いいたします。

—林 雄太 H7営—





# 建学の精神をたづねて

## リベラルアーツと建学の精神の方向性

神保町シンクタンク  
黒田裕治(78年3月 法学部卒)

プロフィール  
1955年7月4日 広島県尾道市 生まれ  
立教高等学校 立教大学を経て  
近畿日本ツーリスト株式会社に勤務  
2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、  
現 神保町シンクタンクを主宰

本年のSt.Paul's Alumni(立教大学校友会報8月号)では英語でリベラルアーツを学ぶ「Global Liberal Arts Program(GLAP)開設について詳しく解説されている。また、国際基督教大学をはじめ、幾つかの大学でもグローバルリベラルアーツなるものの導入に取り組んでいる。

築地で産声を上げた本校の前身「立教学校」の建学の精神に想いを馳せながら未来の大学教育の進む方向性を探ってみようと思う。

さて、リベラルアーツとはどのような教育なのか読み進んでいくとギリシャ・ローマ時代に理念的源流が確立されたようだ。中でもローマ時代の末期に成立したという「セブンリベラルアーツ」(自由7科)だという。この7科が、奴隷でない自由人として生きていくために必要な素養とされたからだという。「自由7科」は、「3学」(トリウィウム)と「4科」(クワードリウィウム)の2つから成っている。「3学」は、主に言語にかかわる3科目のことで、「文法」(Grammar)、「修辞学」(Rhetoric)、「弁証法(論理学)」(Logic)。「4科」は数学にかかわる4科目で、「算術」(Arithmetic)、「幾何」(Geometry)、「天文」(Astronomy)、「音楽」(Music)である。この「自由7科」の上に「哲学」(Philosophy)があり、さらにその上に「神学」(Theology)があるという学問体系になっていたという。その後、中世のヨーロッパで大学が誕生した際、この「自由7科」は、学問の科目として公式に定められ、その伝統を今もアメリカのリベラルアーツカレッジは継承している。

アメリカ聖公会の宣教師、チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教が日本に渡ってきたのは、まだキリスト教の布教が禁じられていた1859年のことだ。偉大な志を持って伝道に従事したウィリアムズ主教は1874年、東京築地の外国人居留地に英学と聖書を教える私塾を開いた。わずか数人の生徒で始まったこの小さな学校は「立教学校」と呼ばれた。これが現在の立教大学の始まりです。その後、立教大学(英語名セントポールズカレッジ)と改称、すべて原書による宣教師たちの授業は人気を呼び、学生数も増加していった。

創立当時の日本の時代背景は、欧米先進諸国に早く追いつき、物質的な豊かさを手にすることが国民全体の目標でした。教育も「実利主義」な傾向が強く、知識や技術を物質的な繁栄と立身出世の道具とする風潮もあった。立教はこのよう

な。単に既知の知識を修得するのではなく、むしろ無限の未知なる世界に足を踏み入れていくことを目的とし、真理を追求する場として大学を位置づけたのです。事実を解明するにとどまらず、解明された事実の意味を探究する姿勢を育み、そしてそれを人間や社会のために生かすことのできる能力を持った人材を育てようという方針を打ち立てたのです。立教の創始者、ウィリアムズ主教を語るとき、「道を伝えて己を伝えず」という言葉がよく使われます。見せかけや名声のための善行を嫌い、真の信仰者を貫いたウィリアムズ主教の生き方は、創立当初から「キリスト教に基づく教育」をうたってきました。立教大学でのキリスト教に基づく教育とは大学の持つ本来の姿勢に対して何らそれを束縛し、規制しようとするものではなく、ましてや信仰を強制するものではありません。キリスト教本来の姿は、人間をあらゆる束縛から解放して、自由に真理を追い求めることのできる場へ導こうとするものです。そこに求められるのは、真理への畏敬の念であり、真理探究への謙虚な姿勢です。

立教が現在の池袋に移転した当時のライフスナイダー総理は「本校の教育は元来3つの要点に着目している。即ち体育、智育、霊育である。…されど本校教育の眼目は霊育にある」として、キリスト教の信仰に裏付けられた全人教育を促しています。これは智育偏重を戒め、知性、感性、そして身体のバランスのとれた本当の意味での教育を意味し、そこには人を愛することや、人の痛みを分かち合える豊かな感受性を育む姿勢が表れています。このような教育者達に導かれ、立教は、広い視野と将来への展望を培い、総合的な判断力を養成する、いわゆる「リベラルアーツ」の学校としてその地位をゆるぎないものにしました。すべての学生が、学部が提供する専門教育科目とあわせて学ぶ「全学共通科目」は、専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養、総合的な判断力と優れた人間性を養うことを目的とした、全学部生を対象に全学で運営される共通カリキュラムであり「リベラルアーツの立教」を具現化するあたらしい「かたち」と言えるものです。(立教大学HP 建学の精神より抜粋)

つまり立教は建学時すでに本来のリベラルアーツの考え方に基づく教育を実践する仕組みを整えていた。一方、アメリカに移植されたりベラルアーツに基づく学科分類では欧米の学問体系は大きく2つに分かれていて「アート、art」と

「サイエンス、science」である。アートが日本でいう「文系」で、サイエンスが「理系」と考えてもいいが、その本質はまったく違い、キリスト教世界に生きている欧米人にとって、アートは「人間がつくったもの」のことを指し、その科目がアートだからだ。美術、文学、音楽はもちろん、歴史、哲学もアートだ。サイエンスは何かというと、「神がつくった世界=自然(ネイチャー)」を研究する科目のことでこのうち、化学や物理学を自然科学といい、経済学や心理学などを社会科学という。しかし日本ではこのような体系で分類されていない。明治期以来、輸入されてきた「学科」だが文系、理系の違いを明確にしてないため「文学部心理学科」のような欧米の学問体系に基づいたらありえないわけだ。本学でも心理学科は文系だ。さて日本の大学では師範学校を前身とする国立の教育大学は、GHQの指示で米国のリベラル・アーツ・カレッジを範として戦後に設立された大学である。これらは、自然科学、社会科学、人文科学および芸術の専攻から成る少数人数教育を行っており、1970年前後に国の方針で教育大学教育学部に改組する以前は、リベラル・アーツの訳語である自由学芸から引いた学芸大学学芸学部という名称であった。なお、東京学芸大学は教養系を、大阪教育大学は教養学科を設置し、現代的なリベラル・アーツ教育を行なっている。他大学では「国際教養学」という新体系を作った。さらに変化した現在、冒頭の我が母校のGLAPでは「グローバル」がキーワードになるが1998年には観光学部を創設し、すでにグローバル化を推進する「観光経済」に対応したカリキュラムを説いてきた。真のグローバリズムはキリスト教のいう「他者理解」「相互理解」を大いに推進させ、「対話とリスベクト」に基づく世界平和の構築に貢献する。日本文化で言えば近江商人のいう三方良し(相手良し、自分良し、世間良し)である。

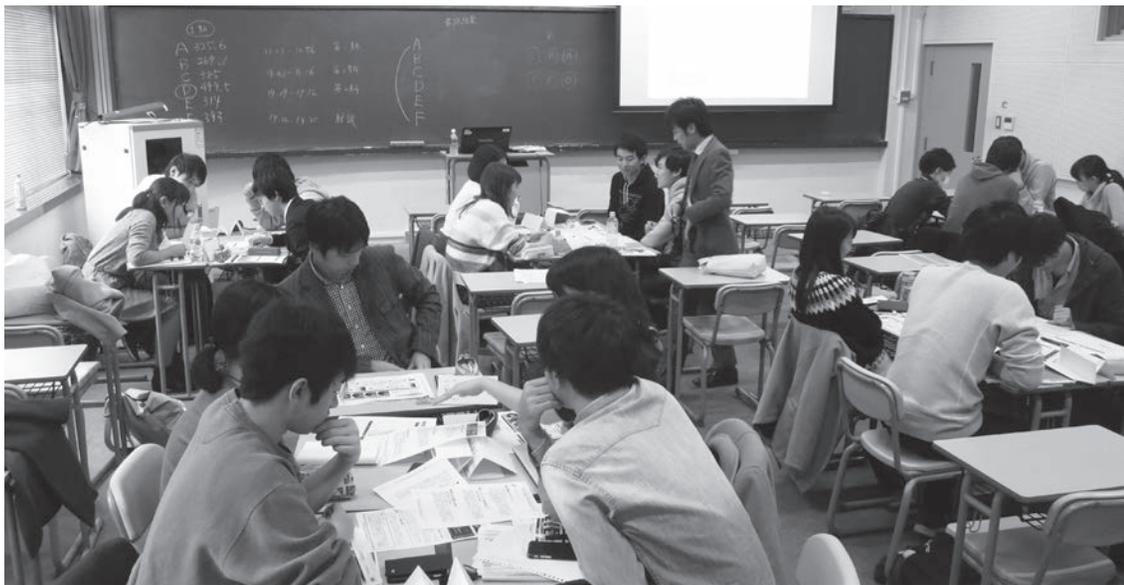
世界の空気はブロック経済圏を提唱するアンチグローバル化に傾きかけていると分析する経済学者も多いが、やはり相互理解こそが地球人類の存続への基本となつてほしいものだ。日本における「立教学校」の建学の精神は全くブレておらず、今や世界平和構築の根本原理といっても良いのではないか?!「先人に学ぶ」良い先人が本学にあることを改めて誇りに思い、今年のクリスマスは立教大学のキャンパスで荘厳なクリスマスツリーとチャペルに行こう!!!!

# 立教大学経済学部のカリカ教育の取り組み

## 「就業観」や「働く意義」を理解し、高い視座から考える力を身に付ける

### 正課「課題解決演習B」—Project-Based Learning—

立教大学経済学部教育研究コーディネーター  
小泉 苑美



今年度より名称新たに再出発した、経済学部の産学連携キャリア科目『課題解決演習』シリーズ。今回は、科目が立ち上がった2013年度からご協力いただいている、第一生命保険株式会社様の授業をご紹介します。

「この授業での取り組みを通じて、INPUT志向からOUTPUT志向に切り替えてほしい。」そう語るのは、今年度講師を務めてくださる、人事部採用グループの勝木学さん。授業の1枚目のスライドには、学生と社会人の違いについてまとめ

られています。「もちろん、ビジネスを遂行するために基礎知識やスキルは必要。けれど、社会人が評価されるのは《成果》。自らが行動を起こし、考え、発信し、相手や周りにどう影響を与えたか。相手の心や行動をどう変化させたか。その《結果》が、自分でなく《他者》に評価されるのが社会人。学生の皆さんはここで失敗を恐れる必要は無いので、自分がどう思うか・どう考えるかを、自分の言葉で伝えようとする努力をしてください。」

第一生命保険による授業は、全8コマで展開

されます。そもそも「保険」の存在が身近でない学生が大多数のため、生命保険についての基礎理解から、リーテイル・資産運用の各事業についてワークを通じて学び、最終的には4～5人の少人数チームで課題に取り組み、社員の方々に前にプレゼンテーションを行います。

最終課題は、「生命保険会社の成長戦略を立案せよ」。まずはPEST分析で保険業界を取り巻く環境について整理し、その戦略のメリット・デメリット、実現の可能性についても熟考した上での提案が求められるため、『課題解決演習』シリーズの課題の中でもかなり難易度の高いテーマと言えるでしょう。チーム全員で根気よく議論を交わし、学生たち自身が納得のいく“成果”を出してくれることに期待したいと思います。



## 2016年度経済学部キャリア教育新規プログラム

### グローバル化する社会で自分の未来を切り開くワークショップ「INSPIRE」

この秋、正課外のキャリア教育プログラムとして、3回連続のワークショップを新たに立ち上げました。その名も「INSPIRE」(inspire: ～に刺激を与える、動機づける)。

変化のスピードが速く、先行きも不透明な時代。本プログラムは、背景や価値観が異なる多様な人たちが協働していくことが必要不可欠な社会に飛び出していくことになる学生たちが、自分のキャリアや未来を切り開いていくマインドを身に付けることを目的に企画しました。そのためにまず、何が「普通」「共通」なのかではなく、お互いの「違い」に注目すること、そして「自分は何者か」「自分はこう考えているのか」など自分の「個性」を改めて考えることに取り組んでいきます。

講師をご担当いただくのは、大手企業や大学にて多くのプログラムを担当する(株)リンクアンドモチベーションの榎原洋平氏と同社の外国人講師。参加者同士が下記ステップで対話や議論を重ねる中

で、他者との関わりを通して自己理解を深めるとともに、今後の学生生活やキャリアについても具体的に考える機会となります。

#### 第1回：自分と他者の違いを知る

～異なるタイプの人とのコミュニケーション方法を考える

#### 第2回：文化の違いを知る

～異文化の構造を知り、対応方法を理解する

#### 第3回：違いを乗り越えるために

～自分の個性を自覚し、今後の具体的な行動計画を立てる

また、このプログラムは、経済学部だけでなく他学部からの参加者も学年を問わず受け入れているため、参加者の多様性も特徴の一つ。自分の未来へそれぞれの想いを持って自ら集まった学生たちが、お互いについて真剣に語り、切磋琢磨する場となるでしょう。プログラムを通して起こる意識や行動の変化が楽しみです。



### タワマン節税に対し高層階を増税へ

- タワー(超高層)マンションの高層階を利用した節税対策が、厳しくなると報道されました。政府・与党は20階建て以上の高層マンションについて、高層階の固定資産税評価額を引き上げ、低層階の固定資産税を引き下げる方針です。2018年以降に引き渡される新築物件が対象になる模様です。
- 相続税対策では、資産を現金で保有するより不動産で保有するほうが、節税効果があると言われます。土地は実際に取引される価格に比べて、土地評価額の基となる路線価のほうが低いこと。建物の固定資産税評価額は、その建設費より低くなるのが理由です。
- 特にタワーマンションでは、敷地の広さに対して区分所有者が多いために、その持分が少なくなって土地評価額が立地の割に低いこと。建物の固定

資産税評価額は、低層高層に係らず同じ面積であれば同じ評価額になること。加えて、人気の高さから価格が下がるリスクも少ないこともあって、その高層階を購入して節税をする方が増えていました。

### 行き過ぎた節税は通達で適正に課税する

■今回の政府・与党の方針の以前にも、国税庁が2015年10月に「行き過ぎたタワマン節税」を税務調査で否認する方針を固めて、全国の国税局・税務署に指示を出したと発表していました。「実質的な租税負担の公平の観点から看過しがたい事態がある場合には、(中略)適正な課税の観点から財産評価基本通達6項の運用を行いたい。」とのコメントでした。財産評価基本通達6項は「この通達の定めによって評価することが著しく不相当と認められる財産の価額は、国税庁長官の指示を受けて評価する。」とあります。実に簡単な文章ですが、それだけに幅広く捉えることができる条文です。

### 審判所でタワマン節税が否認されたケースも

■平成23年7月の東京国税不服審判所の裁決で、このタワマン節税が否認されたケースを紹介します。

亡くなる直前に預貯金を解約し、2億9,300万円のマンションを購入した被相続人の相続税の申告において、その相続人は5,802万円の相続税評価額で相続税の申告をしました(圧縮率は19.8%)。そして相続税の申告直後に、相続人が当該マンションを2億8,500万円で売却したケースが、争われたものです。

- これが否認された理由は、①被相続人は癌が発見されて2ヶ月後に死亡したが、その間に預貯金を解約して当該マンションを購入した。②被相続人が認知症であった。③被相続人も相続人も当該マンションに入居(使用)していない。④マンション購入から約1年後に売却した。⑤評価額に約2億3,500万円もの差異があった。という内容でした。結果は、購入価格の2億9,300万円が評価額であるとして、相続税が課税されました。
- 裁決の事例は極端なものですが、税法には「実質課税の原則」があります。相続税対策で不動産を購入する場合は、期待通りの効果が得られない可能性を十分に理解して購入しなければなりません。



安食正秀(あじきまさひで)

昭和61年 経済学部経営学科卒  
株式会社アセット・アドバイザー 代表取締役  
相続アドバイザー協議会®認定会員上級アドバイザー  
不動産コンサルティングマスター

## ウィリアムズ主教が召し上がった日本茶を訪ねて

### 第2回：金大原チャプレンに伺う“ミサと日本茶”

キリスト教と日本茶の結びつきについてヒントを得ようと、韓国で茶道を体験されたことのある金大原チャプレンを訪ねました。

茶道の袱紗(ふくさ)捌きや同じ器で濃茶を回し飲む作法が、キリスト教の儀式にインスパイアされてきたのではないかという説についてご意見を求めたところ、たしかに似ているところが多いように感じるというご回答(!)。ミサに使用する道具や手順を見せていただけることに。

道具を運び出してきてクロスを広げ、器を清めるところからスタート...まさにお点前と同じ流れ。

不真面目な生徒



だったのでミサに参加したことがなく、初めて見ましたが、あまりの酷似性に驚きました。

さらに聖体をみて、「あっ」と。薄茶といっしょにいただく干菓子のようなではありませんか。

そもそもミサとは、キリストの最後の晩餐の様子を再現して神様を感じるためのものなのだそう。

その様式だけが茶道に反映されたのか、茶室でミサをやっていたと

いう説もありますし、キリスト教の精神或いは教義も反映されているのか、はたまた、..、壮大な歴史ロマンですね。

日曜日の朝10時からのミサに参加すれば通してみる事ができると教えていただき、参加させていただきました。厳粛でそれでいて温かなミサでした。どうして学生時代にもっとこういった教えに接しなかったのか、残念でなりません。

母校と、キリスト教の教えに、お茶に導かれて再び出会いなおしたようです。

もうすぐクリスマス。キャンパスが一年で最も華やかに彩られる季節です。青春時代を過ごした母校に足を運んでみてはいかがでしょうか。

次回はお茶業界で活躍する先輩へのインタビューを予定しています。一満木 葉子 H10心一



[プロフィール]

満木葉子(みつきようこ)  
株式会社ねこばんち代表取締役/  
一般社団法人日本茶アンバサダー協会代表理事

☆日本茶応援サイト『ENJOY!日本茶』  
[www.nihoncha.org/](http://www.nihoncha.org/)

☆株式会社ねこばんちFBページ  
[www.facebook.com/kabushikigaisyanekopanchi/](https://www.facebook.com/kabushikigaisyanekopanchi/)

## 第69回立教経済人クラブゴルフ会



2016年7月18日海の日に、第69回立教経済人クラブゴルフ会が名門、東京ゴルフ倶楽部にて、8組32名の参加者のもと開催されました。

いつもは梅雨明け直後の開催なのですが、今回はまだ明けてなかったもので少しは涼しいかなと期待しておりました。確かに最高気温34℃が当たり前でしたことを考えれば、当日は30℃でしたのでいつもよりは楽だったのかもしれませんが(^\_^)v が、しかし、やはり暑いことは暑いです。皆様、多少違うねとはおっしゃっていましたが、汗ダクでホントに事故がなく良かったと思えるくらいでした。私自身、500mlペットボトルを3本飲みました(^\_^)

コースコンディションはさすが名門、グリーンもフェアウェイも緑の絨毯です(^o^)/ ただ、ラフはホントに大変です(ToT) 真上から見ないとボールが見つからない状態で、フェアウェイから少しだけ外

したラフでもロストになってしまうほどでした。

皆さんへろへろになりながらようやくパーティーです(^\_^) 和田会長のご挨拶に続き表彰式です。この厳しいコースコンディションの中、優勝は44,42の86でまわりました梅田 憲司さん(S50経)です。和田会長より優勝カップが授与されました。副賞として最高級グルメ商品券もゲット、ご家族によりお土産ができましたね(^q^)^v 準優勝は43,40の83でまわりました、斎藤 治さん(S60営)です。和田会長より準優勝のカップが授与されました。毎回ご参加の皆様から賞品をお持ち頂いて

おりますが、今回は特に多数のご提供を頂きました(^o^)/ 誠にありがとうございました。通常は上位の方から賞品をゲットしブービーメーカーの方で終了となりますが、今回は賞品がいっぱいです(^o^)^v

ドラゴン、ニヤピン、ベスグロから当日賞や大波賞等いろいろと即席で賞をつくり、楽しいパーティーになりました。ベスグロは大山 浩一さん(S56立校)で、なんと40,40の80でした。このコンディションの中のスゴいです。仕事、ちゃんとしてますでしょうか(失礼) (^\_^)

優勝の梅田さん、準優勝の斎藤さん、初参加の方から一言ずつお話し頂いて、戸井田副会長の締めのご挨拶の後、恒例の集合写真撮影でお開きとなりました。また次回も盛り上げていきたいと思っております。皆様のご参加をお待ちしておりますm(\_\_)m

—長倉 一裕 S59法—

## 女子会

### 「マハラジャの食卓を囲む会」

2016年9月19日(月)、拡大委員長昆凡子氏の御宅にて、アクティブな女性会員同士の懇親の場として、クラブメンバーの女性を中心としたお昼のお食事会(女子会)が開かれました。今回はゲストとエスコート役の男性を含めた14名の参加者が、夏の厳しい暑さで痛んだ身体を回復すべく、インド4千年の健康法であるアーユルヴェーダのスパイスをちりばめたマハラジャのお食事をいただきながら楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

講師として、日本で一番有名なインド人といわれるジャグモハン・S・チャンドラニさんをお呼びし、一つ一つのお料理のご説明とその効用について、お話しを頂きました。チャンドラニさんのお話と共に、アーユルヴェーダを取り入れ、理にかなった本場のインド料理を頂くと、身

も心も元気になる様な気が致しました。当日は、事務局長からの豪華ワインの差し入れもあり、どれも美味しく頂き、大変盛り上がりました。次回も楽しい企画を考え、皆様と共に有意義な時間を過ごさせる場の提供を図っていきたくと思っております。



—庄司 裕子 H16院ピ—

## グルメ会

2016年9月29日(木)に立教経済人クラブ秋のグルメ会が開催されました。今回は、ミシュランで星を獲得している中華料理「桃の木」でした。予約の取れないことで有名なお店を貸し切り、斬新な中華料理と美味しいお酒を堪能しながら、15名の参加者で楽しい交流を図りました。

オーナーシェフの本当に美味しい中華料理を食べて頂きたいという思いから、基本に忠実なお料理を追及しています。長崎から毎日朝じめの天然魚が空輸で届き、季節感溢れる日本の食材を使い、伝統的な中華料理の技法で名作料理が繰り広げられました。

前菜から始まり、野菜料理(茄子と唐辛子の揚げ物)、季節の魚介類の料理(蝦と春雨)、パパイアのスープ、お魚のお料理(クエ)、干し貝柱のチャーハン、デザートと、あっという間に食べつくしてしまいました。特に、茄子の揚げ物のサクサク感は新食感ともいえる美味しさでした。また、パパイアのスープは、パパイアの果実を器にして、果肉を削りながらスープと一緒に頂くという目にも美味しいお料理でした。

次回も、普段行けないようなお店を厳選して開催しますので、皆さま是非ご参加ください。

—二瓶 豊 H10法—

## 新しく会員になられた方々 (敬称略)

**名古屋 宏** 昭和58法  
共栄火災海上保険(株)  
常務取締役  
〒105-8604 港区新橋1-18-6  
TEL:03-3504-3183  
E-Mail:h.nagoya@kyoeikasai.co.jp  
損害保険業

**中島 佳隆** 平成12営  
タミー食品工業(株)  
代表取締役社長  
〒359-0041 所沢市中新井420  
TEL:04-2943-3535  
FAX:04-2943-3536  
E-Mail:y-nakajima@tamy.co.jp  
食品製造加工

**福元 智子** 昭和63教  
(株)ジェネテック  
代表取締役  
〒107-0052 港区赤坂7-3-37  
ブラス・カナダ1階  
TEL:03-3472-7762  
FAX:03-4333-7764  
E-Mail:fuku@gene-tic.com

### 2016年度会員名簿における誤記のお詫びとご案内

今般、皆様へお届けいたしました立教経済人クラブ・2016年度会員名簿に誤記がございましたので、下記の通りご案内申し上げます。  
皆様へは、多大なるご迷惑をお掛け致しましたこと、深くお詫び申し上げます。 総務委員長 湯浅 修

#### 立教経済人クラブ名簿 2016年版 正誤表

訂正箇所	名前		誤	正
P.1 8段目	浅野 恭喜 様	自宅 Email	zys.aao.98@gmail.com	2ys.aao.98@gmail.com
P.2 6段目	安東 隆司 様	勤務先	おカネ学(株)	RIA JAPANおカネ学(株)
		役職	代表取締役社長	代表取締役
		業種		内閣総理大臣登録 投資助言業 相続コンサル等
		職業別索引 会社名	(株)SMBC信託銀行	RIA JAPANおカネ学(株)
P.49 41行目		勤務先・役職	おカネ学(株) 代表取締役社長	RIA JAPANおカネ学(株)代表取締役
P.4 1段目	井関 由子 様	勤務先住所 ビル名	鉄鋼ビルディング9F	鉄鋼ビルディング 9F
P.30 6段目	中島 丈晴 様	勤務先	LLP (虎ノ門会計グループ)	虎ノ門 LLP (虎ノ門会計グループ)
		勤務先電話	03-3531-9009	03-3580-1077
		勤務先 FAX	03-3531-9009	03-3580-1078
		会社 Email	take.nakajima@gmail.com	nakajima@toranomom.co.jp
		自宅 電話	03-5879-7929	03-3531-9009
		自宅 FAX	03-5879-7929	03-3531-9009
		自宅 Email	nakajima@toranomom.co.jp	takeharu.n1@gmail.com

#### 2016年度 事業計画書

2016年 12月 6日	クリスマスパーティー	ホテル・ニューオータニ	(募集)
2016年 12月 10日	第70回ゴルフ会	ザ・カントリークラブ・ジャパン	(募集)
2017年 2月 1日	新春名刺交換会	日比谷松本楼	(募集)
2017年 3月	世代を超えた勉強会	場所未定	(募集)
2017年 3月	朝食勉強会	場所未定	(募集)
2017年 3月	グルメ会	場所未定	(募集)

### 立教経済人クラブ ウェブサイト

<http://www.r-keizaijin.net>

立教経済人クラブでの、過去の行事や活動はウェブサイトでご覧頂けます。



Facebookで、立教経済人クラブの  
グループに参加しよう!

セミナーや新製品の告知、交流の場としてドシドシ投稿してください。

### 編集後記

10月13日夕方、帰国する前日に、タイ国民から絶大な人気があったプミポン国王崩御の報に触れました。あれから1ヶ月ちょっと、訪タイして感じることは、その存在が如何に大きかったかです。一般の生活風景は通常通りに戻っていますが、皆いまだに黒基調の服を着ているんです。ちゃらけた色の服を着て飛び出していた自分の格好の恥ずかしいこと。

国王の死が、最大のントリーリスクと言われていましたが、どうなっていくのでしょうか。軍事政権が入ってきたのは、これを見越しての基盤作りだと思うので、そういう意味ではソフトランディングしたのかもしれませんが、最近のタイは先進国の仲間入りをしようとするあまり、一昔前と比べると、ちょっと息苦しさを感ずる雰囲気があります。

国王は政治には介入していませんでしたが、敬愛する王の下、ちょっとやんちゃに人生を楽しむタイ人のマインドは、やはり少しずつ変わって行くように感じる今日この頃です。

— 徳澄 範光 S62数一 —